



第1回：“総合型クラブの全国展開”というスポーツ政策と社会運動を今、反省・評価する
～何が問題だったのか～

日時：10月31日（土）15時～17時（受付：14:30）

会場：第1回：拓殖大学（文京キャンパス）F館国際教育会館3階（F301教室）

<https://www.takushoku-u.ac.jp/summary/bunkyo-campus.html>

集会形式：対話（参加者によるフリーディスカッション）形式

開催形式：ハイブリット形式

参加費：無料

趣旨：これまで本学会では、学校や地域におけるスポーツをテーマとした研究集会（学会の研究知見をアウトリーチする研究集会）を継続的に開催してきました。なかでも、スポーツ振興基本計画(2000)において全国展開が進められた「総合型地域スポーツクラブ」育成については、あるべき姿、育成条件、育成効果・成果などの多角的な視点から、その育成方策を議論するとともに、学会としてもこの政策に注目してきました。

総合型地域スポーツクラブ育成状況は、特に人口が減少する地方においては会員数や事業数を縮小するクラブが数多く存在し、休廃止クラブも増加するなど、その育成率は停滞している状況が続いています。また、総合型地域スポーツクラブの法人格取得や、指定管理者制度の導入、質的整備に関する制度（登録・認証制度）の活用は、その組織や事業の規模を拡大したクラブを増やしてきましたが、我々が示してきた育成方策（スポーツ生活者の育成による持続可能なクラブ育成）とは程遠い姿のままであるようにも思えます。

現在、「第4期スポーツ基本計画」がスポーツ庁のスポーツ審議会で議論され、令和8年7月にその中間報告が提示されていますが、そこでは「総合型地域スポーツクラブ登録・認証制度の普及」が施策として明示されています。一方でその量的整備（新規クラブの育成）は等閑視されているように思えます。また、「スポーツの成長産業化」に向けた地域スポーツ施策が数多く明示されていることにも気づきます。このような新たな局面において、これからの総合型地域スポーツクラブ育成や地域スポーツ推進には、どのような研究や実践が求められるのでしょうか。

今回は、会員（研究者）を対象とした対話集会（参加者が気軽に課題意識を表出できる場の設定）を開催したいと思います。具体的には、上記テーマに基づき、これまでの研究成果を振り返るとともに、参加者の問題意識を共有したり、今後の研究課題について議論したりできればと思っています。

申し込み：web申し込み（〆切10月28日）

<https://forms.gle/5hZDtodjfEax2L6T6>

*オンライン参加者には申込後にzoomアカウントをお伝えします



問い合わせ：日本体育・スポーツ経営学会 アウトリーチ委員会

担当：行實鉄平 E-mail: jamps.outreach@gmail.com

<申込先 QR>